

第7回洛陽市技術研修生帰国

1年間の研修を終え、韓建海さんと周志立さん(岡山理科大学で研修)が昨年11月19日、曹培紅さん(岡山市役所国際課で研修)が今年1月31日に帰国されました。

韓 建 海

私は、岡山理科大学機械工学科でロボットの制御に関する研究をしました。研修を通し、科学技術の知識と日本語の習得はもちろん、地元の人たちとの交流により、文化や人々の生活、価値観を知ることができました。

岡山の自然の美しさには深い印象を受けました。瀬戸内海の水がきれい、桃とマスクットがおいしい、自然災害の少なくとても快適で暮らしやすい所だと思います。市民の温かい人情と友好的態度と手厚いお世話を受けました。また日本人は何事にも真面目に取組み、強い責任感と協力意識を持っていることが印象深かったです。その他、外国人のための日本文化などの紹介や、日本語講座、ボランティア制度、国際交流祭など、いろいろな努力をしていることに非常に感心しています。

皆さんのお陰で無事に研修が終わりました。帰国後は、日本で勉強したことを生かして、一生懸命頑張りたいと思っています。中日と洛陽・岡山の友好が末長く続きますよう、お祈り致します。

曹 培 紅

私は大学で日本史を勉強しました。卒業後は洛陽市外事弁公室で日本との交流の仕事をしており、いつか日本でいろいろ経験できたらと思っていました。

研修中は、県内・県外各地を視察させていただきました。その他、友好交流サロンでの「日本文化紹介講座」に毎度参加し、様々な伝統文化を体験しました。僅か1年間にたくさんの日本の友達ができ、彼等は困ったことがあるといつも助けてくださり、私は心から岡山市民の温かい人情と手厚いおもてなしに感激しています。

岡山市は国際交流を非常に重視しており、市民と外国人と一緒に参加できる行事などがよく開催されます。私は国際課で研修しているお陰で、様々な事業の計画から開催までの全行程に参加させていただきました。私は国際交流の重要性を強く感じると同時に、自分も日中友好や洛陽市と岡山市の友好のために何かしなくては、と考えています。

帰国後はここでの研修を生かして、洛陽市民に日本の社会や文化や風俗などを紹介すると共に、両市の友好の掛橋になるよう頑張ろうと思っています。

最後に、この研修の機会を提供して下さった岡山市役所と洛陽市政府、並びにこの1年間お世話になりました方々に心からお礼を申し上げます。

周 志 立

最初に日本の地を踏んだ時、清潔な環境と先進的技術を持つ美しい島国という印象を受けました。中でも、岡山は気候風土に恵まれ、瀬戸内海、瀬戸大橋、文化遺産の備前焼、特産の白桃などが、更に魅力を添えていると思います。

岡山理科大学では専門研修の他様々な事も学び、学校運営上で多くの点が中国とは異なっていたけれども、日本と中国のやり方それぞれに長所があることが分かりました。大学での研修、また工場や先端産業展示会などの見学を通じて日本の進んだ技術と生活の便利さを身をもって感じました。

日本の文化は中国の伝統文化の影響を強く受けており、生活する上であまり困りません。私は、日本文化紹介講座に参加することで、日本文化を理解し、伝統文化の特徴と魅力を感じることができました。

この1年間、皆さんのご配慮とご支援とご指導のお陰で、生活面、勉強面において滞りなく、かつ十分な成果を上げることができました。技術研修は両市の友好関係を更に発展させる活力となるような交流です。私たちは、今後とも両市の友好関係の促進のために貢献していかなければと思っています。



韓建海さん



周志立さん



曹培紅さん

第4回岡山市技術研修生帰国

昨年4月からの洛陽市での中国語研修を終えた第4回岡山市技術研修生の3名が元気に帰国されました。洛陽市での1年間の思い出を綴っていただきました。

黒岩 真里子

洛陽での留学生活は、私に深い印象と新たな知識を与えてくれたが、その中で最も貴重な体験であったのは、現地で出会った人々との交流である。中国語が多少なりとも話せるようになったことは大きな喜びであるが、相手が何を考え、自分或いは日本人をどう受け止めているのかを中国語を通じて知り得たこと、又互いの感情を理解し合えたことはそれ以上の喜びであった。

洛陽に着いた当時、私は全くと言うほど中国語を解せず、何を聞かれても首をかしげるばかりであった。こんなことで本当に中国語が話せるようになるのか、友人ができるのかという不安が私の上に重くのしかかっていたのが私の心中であった。しかし、中国人は一度面識を持った人に対しては過ぎるほど親切で、中国語を聞き取れない私にゆっくり話してくれたし、私の拙い中国語にも忍耐強く耳を傾けてくれたのである。私が間違った中国語を話すと文法を直してくれた。そのお陰で、次第に話すことに対する恐れが薄れ、中国人の友人、先生方に積極的に話しかけることができるようになった。

今回の研修でこのような経験ができたことは素晴らしいことであり、人生において意味があることは確かである。今後も中国人との交流を保っていきたい。

藤原 恭子

「信はたていと、愛はよこいと、織り成せ人の世を美しく」これは故岡崎嘉平太氏の言葉だ。私は洛陽で、このような人の輪を作り出せたらと1年の研修に臨んだ。

まだ洛陽に来て間もない頃、ある留学生の紹介で洛陽の伝統武術を受け継いでおられる方と出会った。そして岡山を紹介するパンフレットを差し上げたところ、お礼に洛陽の史跡や歴史に関する貴重な本を頂いた。研修生として、洛陽の伝統文化を受け継いでおられる方と交流を持ち、岡山への関心を深めていただけてとても嬉しかった。

また私はこの研修中、結婚式に伴娘（花嫁の付き添い）として参加することができた。花嫁は一昨年の洛陽市技術研修生だった陳励さん。友好交流サロンで出会って以来、私にとって良きお姉さんである。結婚式の当日、両家の家族の方や花嫁さんにも助けられつつ、即席伴娘は何とか役目を果たし終えた。中国の結婚式は本当にアットホーム、その上日本より賑やかで楽しい。私にこのような貴重な体験をさせてくださったお姉さんへ心から感謝したい。

この他数々の出会いを通して築いた信頼のたて糸を軸に、更なる友好を深めつつ、今後も幅広く交流の輪を作り続けたいと思う。

高橋 伊知子

洛陽で生活し始めた頃は右も左も全くわからなかった。そんな時、私を支えてくれたのは留学生仲間たちだけではなく、中国の先生方、友人たちであった。彼らと出会えたことで中国の習慣、価値観の違いを自ら体験し、自分の世界を広げ、非常に実のある1年にすることができた。

中国の友人たちと付き合いしていく上で感じたのは人と人とのつながりを本当に大切にすることである。友人や隣人の身に何か困ったことが起きると親身になって世話を焼く。「隣は何をする人ぞ」という昨今の日本社会で育った私にとっては、彼らの熱心さが面倒臭く感じられることもしばしばあった。しかし、その熱意に何度励まされ、助けられたことか。私の心は感謝の気持ちでいっぱいである。

彼らの熱意に負けないように、これからもさまざまな活動に参加し、見聞を広め、少しでも日中友好の手助けとなれば、と思う。



↑陳励さんの結婚式に出席した、黒岩さん(写真右)、高橋さん(写真左)、藤原さん(写真左から2人目)。

第 8 回 洛 陽 市 技 術 研 修 生 来 岡

第 8 回洛陽市技術研修生の 3 名が、昨年11月15日に来岡されました。3 名は今年11月までの 1 年間、岡山理科大学でそれぞれの専門分野の研究を行っています。



氏 名 高 峰 (こう ほう)
 研 修 先 岡山理科大学・工学部機械工学科
 研修内容 自動車の設計と制御、走行ボットの設計と制御など
 職 業 洛陽工学院・自動車工学部教授



氏 名 張 一民 (ちょう いちみん)
 研 修 先 岡山理科大学・工学部機械工学科
 研修内容 形状記憶合金の構造と記憶性能との関係、電子顕微鏡に関する新技術など
 職 業 洛陽工学院・材料工学部助教授



氏 名 姚 旭東 (よう きょくとう)
 研 修 先 岡山理科大学・工学部電子工学科
 研修内容 コンピューターネットワークの理論、データ通信に関する研究など
 職 業 洛陽大学・電子工学部講師



友好交流サロンで日本語の授業を受ける研修生

第 5 回 岡 山 市 技 術 研 修 生 派 遣

第 5 回洛陽市派遣岡山市技術研修生が、応募者16名(女性13名、男性 3 名)の中から以下の 3 名に決定しました。3 名は今年 4 月から 1 年間、洛陽市内の大学で中国語の語学研修を受けられます。皆さん、頑張ってください！



岡山大学大学院文学研究科在学中
 澤 田 望 美

自身の研究分野である「北魏」の都・洛陽を肌で感じるとともに、そこに住む人々への理解を深めた。この研修で得た知識をより多くの方に知っていただくよう、帰国後は中国人留学生と地域の人々との交流や相互理解のお手伝いなどに役立てて行きたいと思っています。



鈴木 智 子

日中両国の一人でも多くの方にお互いの国について理解してもらうよう PR に努めたい。この 1 年間の研修を基盤に中国語や国際文化研究を自身の生涯学習のテーマにし、将来的には産業通訳として岡山の産業発展に貢献できるような人間になりたいと思っています。



山 崎 由 美

コミュニケーションに欠かせない「言葉」の習得、洛陽の人々との「交流」、旅行では味わえない「生活」を体験したい。帰国後は、日本で暮らす中国の人々のお手伝いや、日中交流に限らず世界各国との交流を深めるような行事にも積極的に参加していきたいと思っています。

友 好 交 流 サ ロ ン

「ふれあい講演会」と「日本文化紹介講座」は、「岡山あいフェスティバル'96」開催のため、9月、10月と2月（講師の都合で中止）を除いて毎月1回実施しました。

語学講座は「中国語講座」「ハングル講座」「スペイン語講座」が、それぞれ初級・中級と6コースを実施しました。

ふ れ あ い 講 演 会

岡場で生活する外国人の、国の数も人数も多くなり、また、海外滞在の経験をもつ日本人も多くなって、国際交流も多様化しています。そうした経験をもつ方々による講演を通して、地球市民時代といわれるこれからの国際交流について考える場となることを目指しています。



4月

三好直樹さん
「ドンボイ・ミヨシの
OUT OF AFRIKA」



5月

キャサリン・A・ピーターズさん
「日本で暮らして」



6月

井上夏実さん
「案ずるより住むが易し
～牡丹の都洛陽に暮らして～」



7月

フレデリック・ロカさん
「フランス人の日常生活」



8月

スィアオ・テッキョンさん
「マレーシアの多様性」



11月

レベッカ・モリスさん
「カナダの教育について」



12月

賈 鐘壽さん
「日韓の文化の比較
～その同質性と異質性について～」



1月

兪 暁明
「国際交流のありかたを
考える」



3月

成石 寿之
「『ロンドンにイギリス
が無い』ように」

日本文化紹介講座

外国人に日本語習得の場を設けるだけでなく、その背景となっている文化を紹介することによって、日本をより深く理解してもらうようにしています。今年は、伝統的な裁縫を紹介するため、「刺し子」を新しく取り上げました。



4月 「生け花」

広瀬香節先生
この花はこちらに向けて
と格好がよくなります。

5月 「茶道」

佐治宗光先生
茶杓はこういうふう
に置きます。



6月 「着つけ」

坂本紀子先生
男の人の着物姿もなか
なかいいものです。

7月 「書道」

木村明美先生
中国の人が多くてひらかな
に挑戦してもらいました。



8月 「空手」

岩田 厚先生
コツを覚えれば板を叩
いても痛くありません。

11月 「刺し子」

藤原一子先生
田中純子先生
こんなきれいな絵柄が
でき上がりました。



12月 「合気道」

竹村玄山先生
いきなり刃物を突き付
けられたら皆さんどう
しますか？

1月 「投扇興」

田中克郎先生
扇子を投げるゲーム性
が喜ばれました。



2月 「巻きずし」

畠瀬恵美子先生
お寿司は具を上手に使
うとおいしくなります。

3月 「日本の感性」

大月宗明先生
「さくら舞曲」に全員
で挑戦しました。



情報紙「あくら」と「情報コーナー」

「あくら」は、日本語と英語、中国語、ハンゲル、スペイン語の5か国語で生活情報を提供しています。昨年度も、2か月ごとに6回発行しました。ボランティア編集委員の協力によって22号に達しました。



印刷情報あり、手書きの情報あり、形もさまざまですが、情報を求める人と提供する人の仲介を果たしています。期限のないものは1か月間貼ることができます。



語学講座と日本語教室

中国語講座



初級 鳥越崇昌先生



中級 張建華先生(9月まで)



中級 兪 曉明先生 (10月から)

ハンゲル講座



初級 林 一圭先生



中級 崔 泰順先生

スペイン語講座



初級 ベルドモ・イルセ先生



中級 マルレーヌ・タシマ先生

日本語教室



テープやCDを使うのも学習の有効な手段です。



受講生のレベルに応じて7~8クラスに分かれることもあります。



補助教材の作成も先生の苦勞のあるところです。

第2回アジア奨学生帰国

第2回アジア奨学生のガルシンハさん（スリランカ）とバツク・バタボールドさん（モンゴル）が1年間の研究を終え昨年11月に帰国されました。なお、アドリン・トハリさん（インドネシア）は、私費留学生として引き続き岡山大学大学院工学部修士課程で研究を続けています。

アドリン・トハリさん
（岡山大学大学院工学研究科）



ガルシンハさん
（岡山理科大学工学部機械工学科）



バツク・バタボールドさん
（岡山大学医学部医学科）



第3回アジア奨学生来岡

第3回アジア奨学生が昨年9月にパキスタンより1名、10月にベトナムより1名、11月にタイより1名来岡しました。3名は市内の大学で1年間それぞれの専門分野の研究に取り組んでいます。



氏名 Aftab Saeed
（アフタブ・サイード）
出身国 パキスタン・イスラム共和国
受入先 岡山大学大学院薬学研究科
研究分野 生薬学
職業 ハムダード大学研究部副部長



◁岡山大学にて研究中のサイードさん



氏名 Nguyen Hong Van
（ウェイン・ホング・ヴァン）
出身国 ベトナム社会主義共和国
受入先 岡山大学環境理工学部
研究分野 環境アセスメント、廃水、水質管理等
職業 ホーチミン市水道公社技術吏員

岡山大学の研究室での◁ヴァンさん



氏名 Panita Kliangsa-Ard
（パニタ・クリアンサード）
出身国 タイ王国
受入先 岡山商科大学大学院商学研究科
研究分野 商学
職業 無



◁友好交流サロンにて日本語の研修を受けるパニタさん